

目次

萩原守衛のスケッチ	武井 敏……………1
当館も小説『安曇野』イヤー	幅谷 啓子……………2
碌山忌記念講演	
萩原守衛の彫刻を解剖する	布施 英利……………3
ストープを囲んで	
白井吉見の『安曇野』を語る	平沢 重人 太田 寛……………18
中原悌二郎の写真コレクション(三)	武井 敏……………36
開館六十五周年記念寄稿	……………41
追悼 柳沢 廣 前顧問	
碌山美術館の充実と発展に尽くし、生涯を通して 彫刻の勉強を続けられた柳沢廣先生の死を悼む	高野 博……………50
令和五年 日記抄	……………54
新収蔵作品	……………55
令和五年度役職員ほか	……………55
サポーターメンバーシップ参加法人	……………56
森靖展	……………56
令和六年度企画	……………56

当館も小説『安曇野』イヤー

館長 幅谷啓子

令和五年度の企画として九月に開催しました美術講座「相馬黒光」は碌山の彫刻《文覚》《テスベア》《女》と黒光さんとの制作秘話などを学芸員が解説いたしました。寒くなりました十一月にはストープを囲んで「白井吉見の『安曇野』を語る」を開き、講師に愛読書が『安曇野』と言われる太田寛安曇野市長、平沢重人白井吉見文学館長のお二人をお迎えしてお話をお聞きいたしました。

また友の会では、コロナ禍で中断していた月一回の読み合わせ会を五月から再開して「相馬黒光を読む」が始まりました。黒光さんが残した文章をテキストとして萩原守衛との関係を中心にその人となりになる読み合わせ会です。

白井吉見の小説『安曇野』は五部作の長編からなります。書き出しは今もそのまま残されている黒光さんの嫁ぎ先の穂高白金の洋間でクリスマスツリーの飾り付けをする場面から始まり、最後は碌山美術館のグズベリーハウスで職員の横山拓衛さんがオルガンを弾きながら「信濃の国」を繰り返し歌っている感動的なシーンで終わっています。

安曇野市ではこの『安曇野』を盛り上げようと、「登場人物はなんと総勢二〇〇〇人」、「原稿用紙五六〇〇枚」、「NHK大河ドラマ化実現へ奮闘中」などの見出しでパンフレットを作成し配布しています。安曇野市の文化講座「安曇野アカデミー」全五回では、『安曇野』に登場する人物を取り上げる講座を設け市民が参加しました。また現在絶版になっている『安曇野』の再版に向け取り組んでいるとお聞きます。

この様なこの地、安曇野を皆で盛り上げていく事業に碌山美術館も積極的に関わって行くことが、開館六十五年となった当館の今後の更なる発展につながる取り組みの一つと考えます。